

地域協働型インフラ管理の実践 -岐阜県中津川市神坂地区の協働点検を通じて-

倉内 文孝¹・水谷 香織²・加藤 十良³・大野 沙知子⁴
・ドイル 恵美⁵・小林 潔司⁶

¹正会員 岐阜大学教授 工学部社会基盤工学科 (〒501-1193 岐阜市柳戸1-1)
E-mail:kurauchi@gifu-u.ac.jp

²正会員 パブリックハーツ株式会社 (〒)
E-mail: kao@publichearts.com

³正会員 岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター (〒501-1193 岐阜市柳戸1-1)
E-mail:t_kato@gifu-u.ac.jp

⁴正会員 名古屋大学未来社会創造機構 (〒464-8601 名古屋市千種区不老町)
E-mail:sachi_ono@coi.nagoya-u.ac.jp

⁵正会員 京都大学研究員 経営管理大学院 経営管理講座 (〒606-8501 京都市左京区吉田本町)
E-mail: doyle.emi.7m@kyoto-u.ac.jp

⁶フェロー会員 京都大学教授 経営管理大学院 経営管理講座 (〒606-8501 京都市左京区吉田本町)
E-mail: kobayashi.kiyoshi.6n@kyoto-u.ac.jp

インフラ管理の新たな方法として、地域住民、専門家、管理者などの様々な主体がそれぞれの役割をもって有機的に連携する地域協働型インフラ管理がある。本セッションでは、地域協働型インフラ管理の実装に向けた展望と課題について議論する。具体的には、中津川市神坂地区で実施した地域住民と専門家の協働点検の取り組みについて報告し、地域住民や地域の専門家が連携する地域協働型インフラ管理のしくみ、地域住民や専門家の役割分担や連携方法、それを実現するための課題、さらには、維持管理を円滑に進めるための情報共有のあり方、および、地域協働型インフラ管理実装による地域社会への影響評価などの視点から、議論する。

Key Words : *Cooperative infrastructure management, Maintenance expert*

1. はじめに

インフラ管理において、管理が求められる量と管理能力の釣り合いが課題であり、今ある人材や資源を工夫した新たな管理の仕組みを構築することで解決できることがある。本セッションで報告する取り組みは、地域協働型インフラ管理と呼び、ここでは、地域住民をインフラ管理の担い手として位置付けることが特徴であり、地域住民、専門家、管理者などの様々な主体がそれぞれの役割をもって有機的に連携する管理である。

本セッションでは、地域協働型インフラ管理の1具体事例を報告することで、地域住民や地域の専門家が連携する地域協働型インフラ管理のしくみ、地域住民や専門家の役割分担や連携方法、それを実現するための課題、さらには、維持管理を円滑に進めるための情報共有のあ

り方、および、地域協働型インフラ管理実装による地域社会への影響の把握などの視点から、議論する。

地域協働型インフラ管理の関係主体として、地域住民、専門家、管理者、仕組みをささえるコーディネーターがいるが、専門家について詳述する。今回報告をする地域協働型インフラ管理の具体では、社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) が、インフラのまち医者としての役割を担った。MEとは、社会基盤の維持管理に関する高度な専門技術者であり、岐阜大学が平成20年度より、県内の自治体や建設業界の土木技術者に対して養成講座を実施している。2016年4月時点で309名がMEとして認定をされている。地域協働型インフラ管理の実装に向けては、MEが、地域ニーズに応える技術者として、どのように地域社会に貢献し、ME活動を仕組み化できるかが重要であると考えられる。

本セッションの話題提供は、岐阜県中津川市神坂地区で実施した地域住民とMEによる地域インフラの協働点検である。具体的には、図-1および図-2に示すように、平成26年度、平成27年度の2回実施をした。各年度の協働点検について、詳述する。1年目である平成26年度は、地域の困りごとに対して、地域で何ができるかを考える機会とした。ここでは、地域住民からの要望を、専門家と点検することに取り組んだ。協働点検およびワークショップを通じて、管理者の予算・人員・技術でできるインフラ管理、地域でできるインフラ管理、地域協働型で管理する方法等について、実際に無理なく機能することを考えて検討をした。2年目である平成27年度は、地域の困りごとに加え、地域のインフラの状態をMEが提供する「一斉点検」を実施した。一斉点検では、ハザードマップやなどの情報をもとに、MEが机上で危険箇所を抽出し、現地で具体的に状態を確認することを実施した。地域住民とMEの協働点検では、地域住民からの要望と一斉点検の結果を現地で点検し、地域で防災・減災上、またインフラ管理活用の視点から、注意すべきところを確認し、住民による日常点検、清掃、災害時の避難方法等を協働点検を通じて、確認した。

2. セッションの構成

本セッションは、まず、関係者がそれぞれの立場で、中津川市神坂地区の協働点検の取り組みについて話題提供し、次に、外部者が話題提供をする。そして、フロアと議論する時間を設定し、広く、インフラ管理のあり方について議論する構成とする。

(1) 趣旨説明

はじめに、本セッションの趣旨を説明をし、議論の視点を示す。(岐阜大学 倉内)

(2) 地域協働型インフラ管理のしくみ化に向けた考察

コーディネーターの視点として、神坂モデル事業の全体像について説明をし、どのように地域で実装し、仕組み化していくかについて話題提供する。

(パブリック・ハーツ 水谷)

(3) 仕組み化に向けた専門家の役割

実装主体の視点として、神坂モデル事業の関係者(社会基盤メンテナンスエキスパー、ME)から、協働点検への関わり方、MEの特徴、仕組み化するための課題について話題提供する。(岐阜大学 加藤)

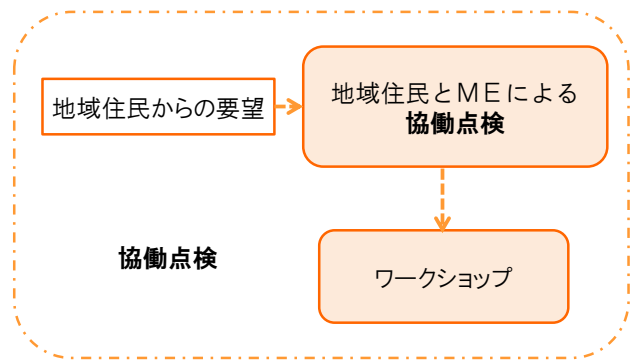


図-1 平成26年度に実施した協働点検

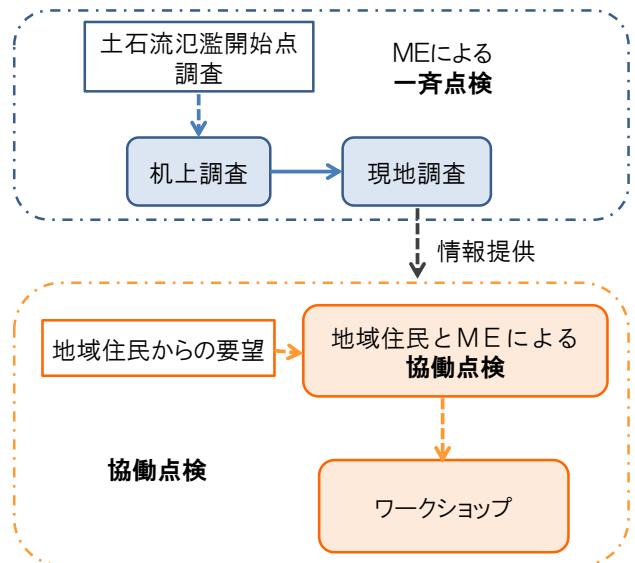


図-2 平成27年度に実施した協働点検



図-3 中津川市神坂地区の協働点検の様子

(4) 地域協働型インフラ管理実装における地域社会への影響

観察者の視点として、協働点検結果を考察し、役割や連携から、地域社会への影響について考察をする。(元岐阜大学 大野)

(5) 地域主導と地域協働の取り組みについて

外部者の視点として、他地域(他国)の考え/取り組みについて話題提供し、地域協働型インフラ管理を発展させる際の課題について話題提供する。

(京都大学 ドイル)

(6)総括

5名の話題提供を踏まえ、今後の地域協働型/主導型インフラ管理を実装するための課題と展開について、全体的なコメントをし、会場とのディスカッションに入る。

(京都大学 小林)

3. フロアと討議の視点

フロアとは、主に、以下の視点を考慮し、議論を深めることを想定する。

- ・ 地域住民や地域の専門家が連携する地域協働型インフラ管理のしくみ
- ・ 地域住民や専門家の役割分担や連携方法
- ・ 地域協働型インフラ管理を実現するための課題
- ・ 維持管理を円滑に進めるための情報共有のあり方
- ・ 地域協働型インフラ管理実装による地域社会への影響評価

(2016.4.22受付)

Infrastructure management as cooperative work: practice in Misaka, Nakatsugawa

Fumitaka KURAUCHI, Sachiko OHNO, Kaori MIZUTANI, Toyoshi KATO,
Emi DOYLE and Kiyoshi KOBAYASHI

Cooperative infrastructure management where local residents, private companies and municipalities cooperate to maintain local infrastructures has been in focus as an effective way of infrastructure management. In this special session, through a pilot practice in Misaka Region of Nakatsugawa City, we will discuss potentials and issues in implementing cooperative infrastructure management. The overview of the event will be explained by different stakeholders. Then, we shall discuss following points with audiences; 1) structure and mechanism of cooperative infrastructure management, 2) cooperation and role-sharing among stakeholders, 3) information sharing, 4) impact of the event to the local region, and so on.